

## 札幌市の現状と交通課題

## ～目次～

1. 札幌市の現状と交通課題	1
1-1 社会経済情勢の変化	1
1-1-1 人口減少と少子高齢化、都市内過疎	1
1-1-2 経済活力の低下	6
1-1-3 環境問題への対応	14
1-2 交通を取り巻く状況の変化	16
1-2-1 札幌市民の交通実態（道央都市圏パーソントリップ調査結果より）	16
1-2-2 自動車交通	27
1-2-3 公共交通（JR・地下鉄・バス・市電）	35
1-2-4 歩行者・自転車	43
1-2-5 広域交通（空港・港湾・新幹線）	47

# 1. 札幌市の現状と交通課題

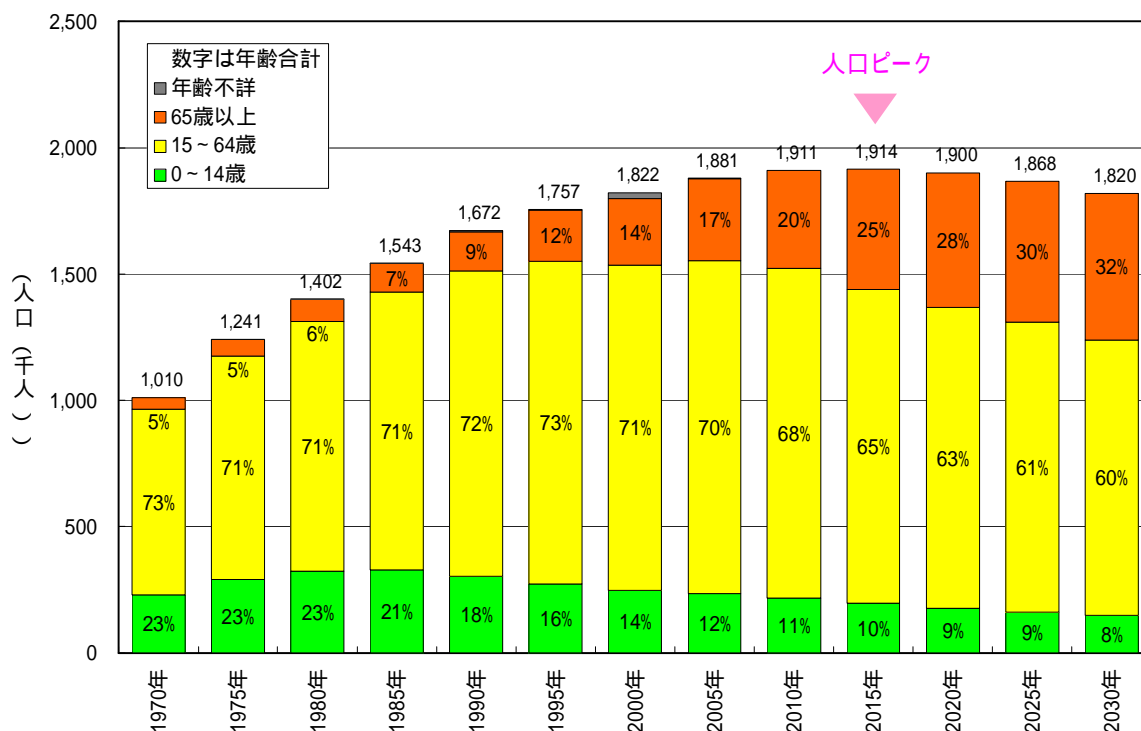
## 1-1 社会経済情勢の変化

### 1-1-1 人口減少と少子高齢化、都市内過疎

#### (1) 人口推移、少子高齢化

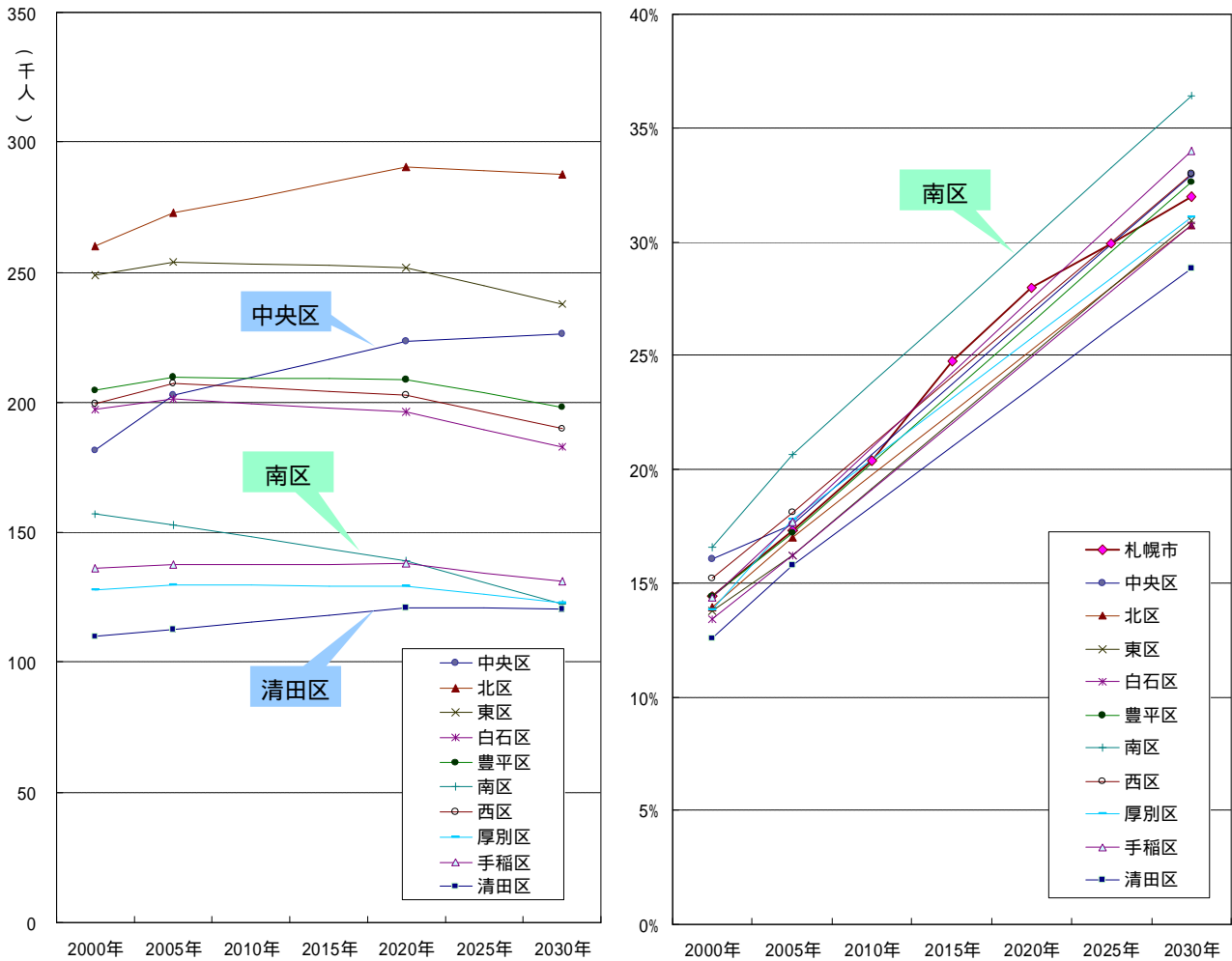
人口は増加から減少へ転じ、少子高齢化はいっそう進行。

- ・これまで札幌市の人口は増加してきたが、2015年以降は人口減少に転じる見通し。
- ・少子高齢化が急速に進み、高齢者割合は2005年の17%から2030年には32%まで上昇するとの予測の一方で、年少人口割合は2005年の12%から2030年には8%まで低下するとの予測である。
- ・区別に見ると(次頁参照)中央区や北区、清田区では未だ人口が増加すると予測される一方で、南区は人口減少と高齢化が急速に進行するとの予測。
- ・従来の右肩上がりを前提とした交通施策から大きな転換を図るとともに、急速に進展する高齢化を踏まえ、高齢者のモビリティ確保に向けた取り組みが必要。



資料：国勢調査（2005年まで）国立社会保障・人口問題研究所推計値（2010年以降）

図 1-1 年齢構成比の推移



資料：国勢調査（2005年まで）、国立社会保障・人口問題研究所推計値（2010年以降の札幌市合計値）

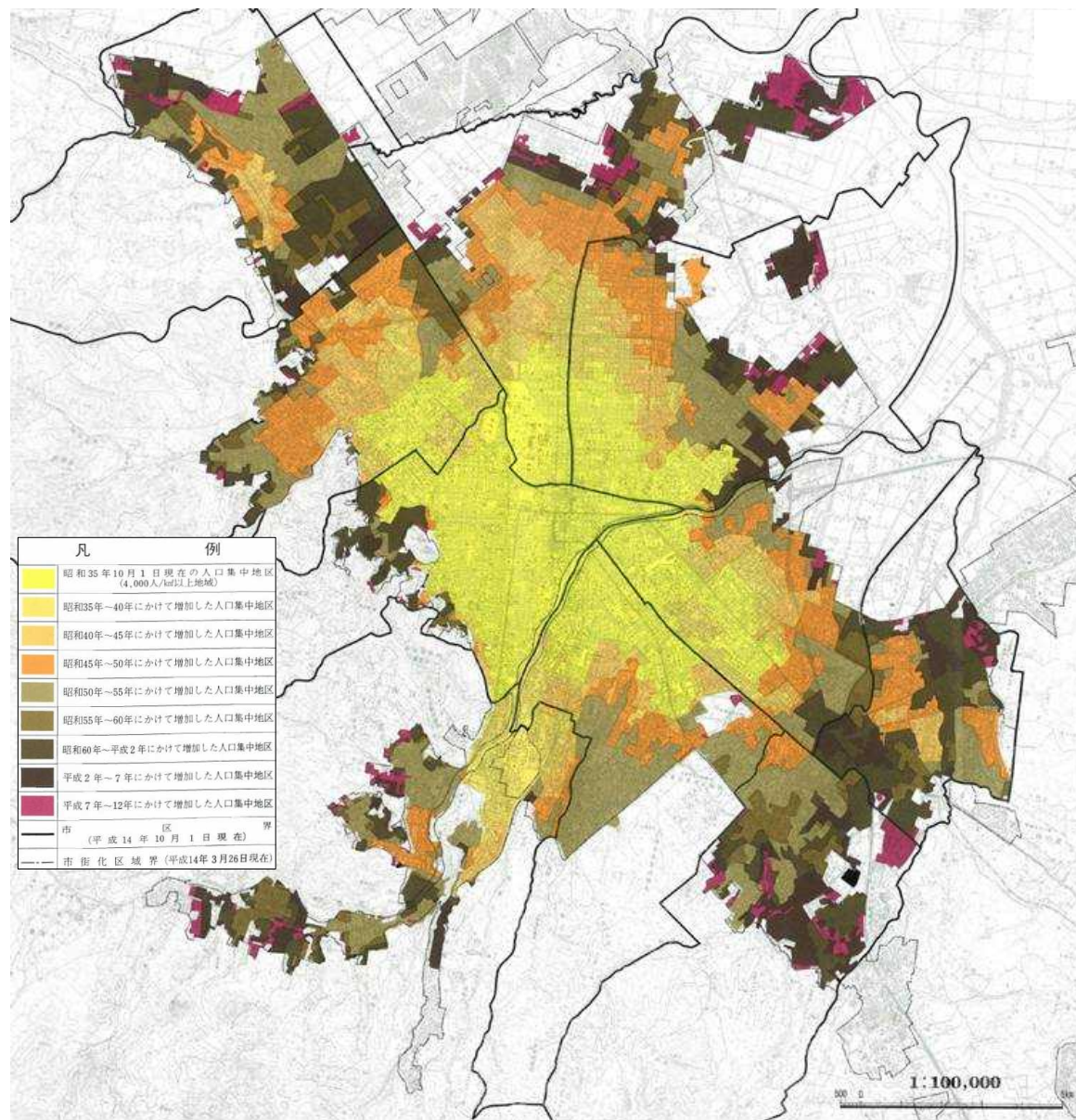
第4回道央都市圏パーソントリップ調査（2010年以降の区別の値）

図 1-2 区別の人口推移（左）と高齢者割合の推移（右）

## (2) 郊外拡大から拡大抑制へ

これまで郊外へ拡大してきた市街地。局所的に急速な高齢化と人口減の懸念。

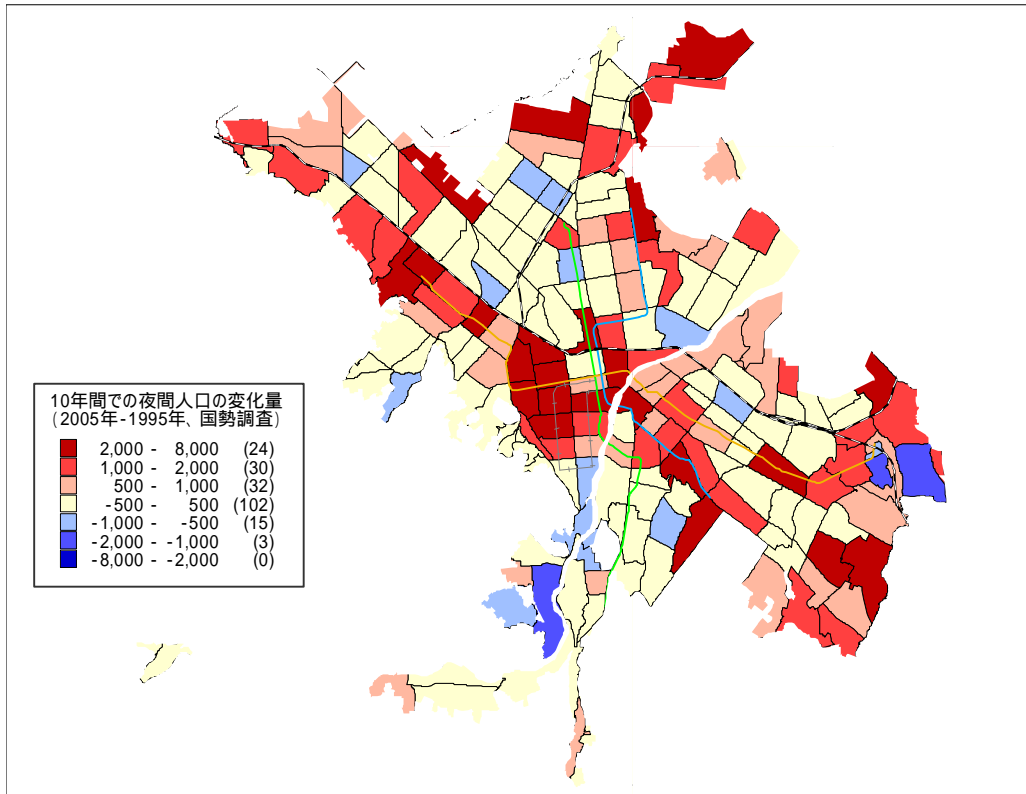
- ・札幌市ではこれまで増加する人口の受け皿として、郊外へと市街地を拡大してきた。
- ・近年の傾向では、鉄軌道沿線や新興住宅地では人口増加が見られる一方で、郊外住宅地で高齢化と人口減少が生じている。(次頁図)
- ・急速な高齢化や人口減少が局所的に発生するなか、その対応が課題となる。



資料：札幌市の人口と住宅

図 1-3 札幌市の DID 地区 (人口集中地区) の変遷

DID 地区 (人口集中地区): 統計データに基づいて一定の基準により都市的地域を定めたもの。国勢調査の調査区を基礎単位として、1)原則として人口密度が 4,000 人/㎞<sup>2</sup> 以上の連続した調査区 2)調査区集合の人口が合計 5,000 人以上などを基準とする。



資料：国勢調査（1995年、2005年）

図 1-4 統計区 別人口増減（2005年（平成17年）と1995年（平成7年）の差）

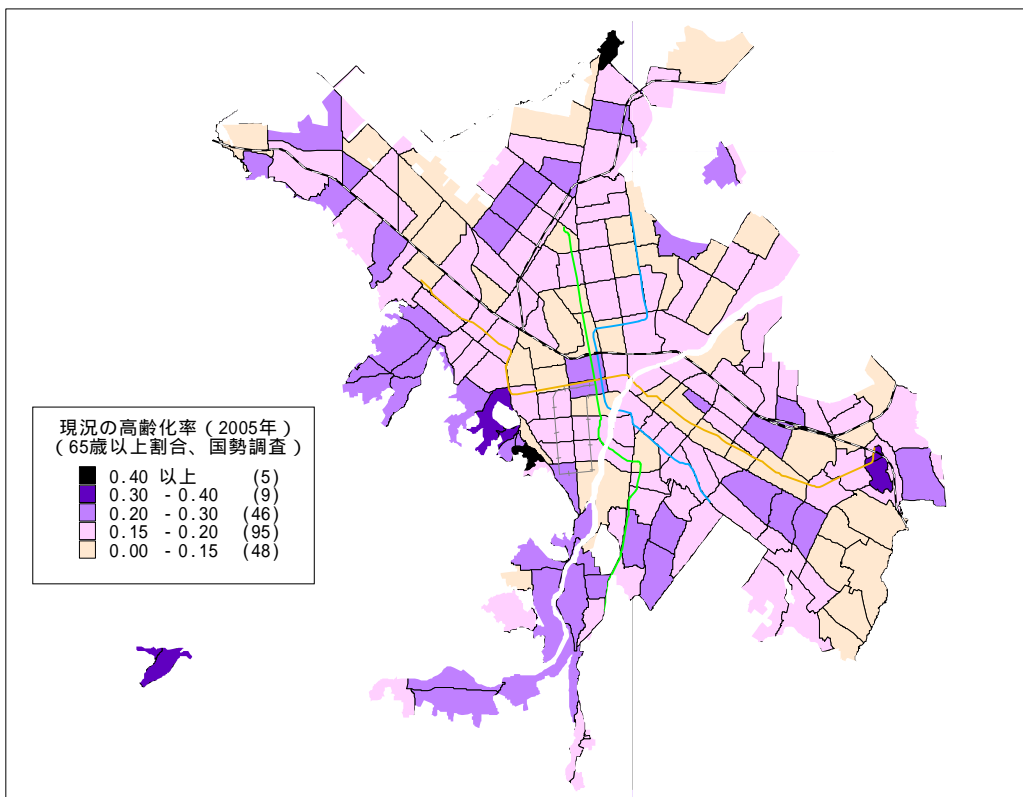


図 1-5 統計区 別高齢化率 資料：国勢調査（2005年）

統計区：札幌市では面積 100ha 前後、人口規模 10,000 ~ 20,000 人程度を基準に統計の地域単位を定めている。



